

行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	SATOYAMAイニシアティブ推進事業費	事業開始年度	平成20年度	作成責任者		
担当部局庁	自然環境局	担当課室	自然環境計画課	課長 星野一昭		
会計区分	一般会計	上位政策	生物多様性の保全と自然との共生の推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計 画、通知等	生物多様性国家戦略2010第2部第1章第6節1.6、第2部第2章第4節1.3			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	里地里山の保全活動の全国的な展開を図るとともに、世界の自然資源の持続可能な利用・管理の枠組みを構築し、自然共生社会を実現する。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	里地里山の保全活用の取組について調査・分析を行い、特徴的な取組事例について情報を発信する。また、保全活動の担い手育成の支援のため、活動団体や活動場所の紹介、里地里山の生態系管理などに関する専門家などの人材登録・紹介、技術研修を実施する。さらに、全国での里地里山の保全活動を展開するため「里地里山保全活用行動計画(仮称)」を策定する。これに加え、世界各地に存在する自然資源の利用形態や社会システムに関する事例収集及び現地調査を行う。以上のような国内外の事例等をもとに、本年10月に開催される生物多様性条約COP10の場において提示するため、持続可能な自然資源の利用・管理の考え方や指針などを整理する。					
実施状況	平成21年度では以下の事業を実施した。 ①里地里山の保全・利活用の推進方策について検討を行い、里地里山保全活用行動計画(仮称)案を作成 ②研修会の開催や講師の紹介による助言・ノウハウの提供などの技術支援 ③世界の自然資源の伝統的な智恵や技術、新しい社会システムや新技術に関する事例を調査 ④国内外の事例の比較分析を行い、自然資源の利用・管理の具体的な手引き・指針として提示すべき技術的な要素の抽出・整理					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	—	126	92	91	91
	執行額	—	124	90		
	執行率	—	98.4	97.8		
	総事業費(執行ベース)	—	124	90		
自己点検	支出先・ 使途の把 握水準・ 状況	事業者とは綿密な連絡を取り、随時必要な調整を行った上で、適正な執行がなされるよう確認に努めている。また、支出先及び使途については、事業完了に伴う金額の確定時に領収書等の必要書類を確認し、適切に把握を行っている。				
	見直しの 余地	里地里山の保全活用の基本はそれぞれの地域での自発的な取組であることを踏まえ、国は基本的な考え方を示すとともに、多様な主体が参加・協働する取組が内発的に進められるよう技術面での必要な支援を行う。また、環境教育やエコツーリズムの場の提供、間伐材のバイオマス利用など里地里山の新たな利活用方策について最新の技術や事例を踏まえた検討を行うことにより、効果的かつ効率的な支援を行う。 本事業については平成21年度予算要求時に無駄削減の観点から業務内容の精査・見直しを行った。今後とも競争性のある調達の実施に努め、効率的な執行を行うとともに、目的に即した効果的・効率的な事業の実施に努める。				
予算 監視 の 所 効 率	現状維持 (平成21年度において既に業務内容の精査・見直しを行い予算規模の見直しをしていることから、現状維持とするが、今後も引き続き効率的な事業の執行に努めること。)					
補 記	○予算繰越(当該年度の前年度からの繰越額)					
		19年度	20年度	21年度		
		—	0	0		

環境省
90百万円

里地里山の保全活動の全国的な展開を図るとともに、世界の自然資源の持続可能な利用・管理の枠組みを構築し、自然共生社会を実現する。

【企画競争】

A. (財)国立公園協会
25百万円

里地里山の保全・利活用の推進方策について検討を行い、里地里山保全活用行動計画(仮称)案を作成

【企画競争】

C. (財)自然環境研究センター
25百万円

世界の自然資源の伝統的な智恵や技術、新しい社会システムや新技術に関する事例を調査

【企画競争】

B. (財)水と緑の惑星保全機構
15百万円

研修会の開催や講師の紹介による助言・ノウハウの提供などの技術支援

【企画競争】

D. (株)プレック研究所
25百万円

国内外の事例の比較分析を行い、自然資源の利用・管理の具体的な手引き・指針として提示すべき技術的な要素の抽出・整理

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。使
 途と費目の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A. (財)国立公園協会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員	22			
旅費	検討委員、専門家ヒアリング	1			
その他	謝金、借料、印刷製本費 等	2			
計		25	計		0
B. (財)水と緑の惑星保全機構			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員	11			
旅費	専門家、講師、職員	2			
諸謝金	専門家、講師	1			
その他	印刷製本費、通信運搬費 等	1			
計		15	計		0
C. (財)自然環境研究センター			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員	20			
旅費	有識者、職員	5			
計		25	計		0
D. (株)プレック研究所			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員	18			
雑役務費	映像、パンフレット、翻訳	6			
その他	印刷製本費、旅費 等	1			
計		25	計		0